



Report 3 お正月は手作りのしめ縄で！ 総領でしめ縄作り



▲達人に縄ないのコツを教わる参加者

稲草西自治会女性部主催の「しめ縄作り」が12月7日、総領町の稲草西自治会館で開催され、地域の方24人が参加しました。

7年目となるこの行事は、地元のしめ縄作りの達人、落合訓光さんと石原行雄さんが講師となり、町内で収穫された稲わらを用いて行われました。

参加者は2人のお手本をもとに、正月飾り用のしめ縄を作成。皆さん毎年参加されているだけあって、1番難しいとされる縄をなう作業も手際よく行い、見事なしめ縄を完成させていきました。

完成したしめ縄は各自で持ち帰り、「新年が良い年でありますように」と願いを込めて、玄関や台所などへ飾りました。

Report 4 音と食のコラボレーション 東城ミュージックコンサート&EAT

東城自治振興区と東城文化ホール活用委員会が主催する「東城ミュージックコンサート&EAT」が12月21日、東城文化ホールで行われました。

2回目の今年も地元東城を中心に、ソロからバンド、小学生から社会人までの幅広い年齢層が出演し、5時間半もの長丁場、実に18に及ぶステージを構成しました。

エレクトーンやリコーダーの華やかな演奏も交えつつ、フォークからロックまで、粋なアレンジにアイデアの効いたヴォーカルと奏法が客席を魅了しました。

また、地元の素材にこだわった特製の料理コーナーは大人気で、来場した約400人は、おいしくにぎやかにクリスマスの近づく一日を楽しんでいました。



▲「べっく」のステージに盛り上がる観客

Report 5 雪合戦シーズン到来を告げる 高野杯ジュニア招待雪合戦大会

『第12回高野杯ジュニア招待雪合戦大会』が12月14日、高野小学校体育館で開催され、県内外から6チームが参加しました。

この大会は、小学生を対象としたジュニアチームによる室内雪合戦の大会で、1月末に開催される広島県雪合戦大会の前哨戦として毎年開催されています。

大会は雪合戦連盟競技規則に準じて行われ、どの試合も白熱した試合が展開。選手はシェルターと呼ばれる壁に身を隠しながら、相手めがけて雪球にみたてたボールを投げ合い、隙あらば相手のフラッグを奪うなど、息の合ったプレーを見せていました。

優勝した「高野雪合戦部（青）」チーム主将の中林大和くん（高野小6年）は「大きな声で協力してプレーできるのがこのチームの良いところ。県大会もチームプレーで優勝を狙います」と力強く宣言していました。



▲試合開始前



▲優勝した高野雪合戦部（青）

市内のイベントやまちの話題をお届けします。
身近でホットな情報をお寄せください。
情報政策課広報広聴係
☎0824-73-1159 / Fax0824-72-3322

Report 1 花と緑のまちづくり活動が高く評価 しょうばら花会議が県表彰受賞

花と緑のまちづくりを広げる活動を行っている「しょうばら花会議」が、地域振興や地域活性化に顕著な功績があったと認められる団体へ贈られる「広島県いきいき地域づくり賞」を受賞しました。

これは、庄原さとやまオープンガーデンや寄せ植え講習会などの活動が、さまざまなメディアにも大きく取り上げられ、本市の地域振興・観光振興に大きく貢献していると高く評価されました。

12月24日、県庁で行われた表彰式に佐藤浩子理事長が出席。湯崎英彦県知事から「今後も地域のリーダーとして活躍してほしい」と表彰状を手渡されました。

佐藤さんは「花会議メンバーみんなの努力の結晶として評価され本当にうれしい。今後の活動の励みにし、仲間を増やして、力を合わせて花と緑の活動の輪を広げていきたい」と受賞の喜びをかみしめていました。



▲湯崎県知事と受賞者で記念撮影。右から2番目が佐藤理事長

Report 2 西城ブルーハーモニー吹奏楽団が20周年 星降る夜のコンサート

西城ブルーハーモニー吹奏楽団による「星降る夜のコンサート」が12月20日、ウイル西城で開催されました。

今回のメインは、20年の集大成とも言える大序曲「1812年」。市内外からの出演者およそ60人での大編成で、迫力あるステージを披露しました。その後、ヒットメドレーや話題の曲を展開し、約250人の来場者は楽しい夜のひと時を過ごしました。

同吹奏楽団は平成7年に西城町を会場に行われた、広島国体なぎなた競技の式典のために結成されたのが始まりで、当時はおよそ25人の団員がいましたが、だんだんとその数も減少。今回の区切り

に合わせ、大編成での曲は一旦終了となりました。

代表の伊藤郁夫さんは「小さな町で20年続けてこられて感謝の気持ちでいっぱい。今後も県大生や若者の力を借りて続けていきたい」と話していました。

「星降る夜のコンサート」は今後も続く予定です。



▲迫力あるステージを披露する西城ブルーハーモニー吹奏楽団



Report 6 言葉の壁もなんのその 比和小で子ども国際教室

中南米の5カ国（アルゼンチン・エクアドル・パラグ



▲ダンスで自己紹介する JAICA 研修員

アイ・ペルー・メキシコ) の JAICA 研修員 8 人を迎えての「子ども国際教室」が 12 月 10 日、比和小学校で開かれました。

初めに披露された自己紹介を兼ねたダンスがとても愉快で、明るく陽気な彼らの雰囲気、はじめは緊張していた児童たちも一緒になって楽しんでいました。

続いて5カ国の文化や生活をクイズ形式で楽しく学習し、その後には日本の遊びを体験。児童全員が5つの遊びの担当者となり、遊び方を教え合いました。児童たちは事前に学習した簡単なスペイン語やポディトークを駆使し、すっかり打ち解けていました。

日雨孫厚子校長は「子どもたちは、言葉は通じなくても心はちゃんと通じる、ということを実感したようです」と話していました。

Report 7 15 演目に会場沸く 第36回くちわ文化祭芸能祭

庄原市文化協会口和支部と口和自治振興区が共催する「第 36 回くちわ文化祭芸能祭」が 11 月 30 日、口和自治振興センターで開催されました。

会場を埋めるおよそ 450 人が来場。町内の 15 団体が出演し、日々の練習の成果を披露しました。和太鼓、合唱、ダンスや神楽など見ごたえ、聴きごたえある演目が続き、演技が終わるたびに大きな拍手と歓声が沸き起こっていました。

トップを飾った口和備神太鼓のメンバーは「来年も出演し、ぜひ皆さんにまた演技を見てもらいたい」と充実した表情を浮かべていました。



▲口和備神太鼓

Report 8 暮らしと行政のつながりを知る 行政相談出前教室



▲行政相談の事例を紹介する作田さん

1月9日、美古登小学校の6年生を対象に総務省中国四国管区行政評価局による「行政相談出前教室」が開かれました。

最初に評価局職員が、行政の仕組みや仕事自分たちの暮らしにどのように関わっているのかを、「起床から就寝まで」「誕生から死去まで」といった一日や一生に照らし説明しました。その後、町内で活動している行政相談委員の作田ユリコさんが登壇し、「同小学校前の国道に、横断歩道前で減速を注意喚起する道路標示の設置は、行政相談委員への相談から実現した」という事例を紹介。「生活の中で気になることがあれば、気軽に相談してほしい」と呼びかけました。

和田眞理子校長は「児童や保護者からの相談事を解決するために、行政も動いていることを伝えたかった。行政との距離が少し縮まったのではと思う」と話していました。